

2011年3月11日

平成 21/22 年度 文化芸術円卓会議からのメッセージ

SAPPORO
CULTURE-ART
ROUND-TABLE CONFERENCE

01 議論の前提条件

<円卓会議>議論のはじまり。まずは・・・

「市民生活において、芸術は必要なのだろうか？」
という基本的な命題に対して。

「芸術とは、暮らしの中に文化を創造する基盤のひとつである」

では「文化」とは何か？

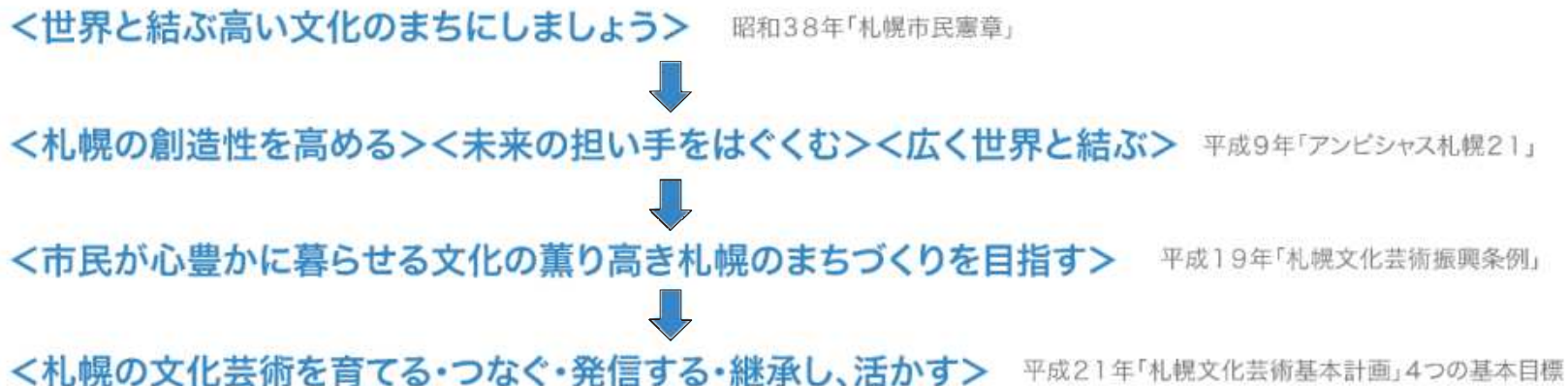
「文化とは、人類が自らの手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体であり
世代を超えて伝承されていくもの。」

「文化」とは人間生活そのもの。そうであれば・・・！

**「芸術の存在しない人間社会を私たちは想像できるでしょうか？
・・・できません。絶対に！」**
なぜなら「芸術」を否定することは人間の築き上げてきた「文化」を否定すること。

これが、<円卓会議>の導きだした答え。
この前提条件からすべては始まります。

02 札幌市における、文化芸術施策の経緯と問題点



平成21年度の「札幌市文化芸術基本計画」では、4つの基本目標のもと、35の事業が具体的な施策として提言されている。しかし、事業の1/3近くが継続事業であり、目標に向かって各施策がどのように関連づけられているかが見えない。

札幌市民憲章が制定されてから約半世紀。

年々施策が「総花化」し、重要なポイントが見えづらくなっている。

文化芸術施策はなぜ「総花化」するのだろうか？

それは・・・↓

1. 過去の施策についての十分な総括・検証ができていない、
2. 社会的価値観の変化に未だ対応できていない。

円卓会議は、このように考えます。

03 過去の施策の総括・検証について

札幌市では、「行政評価」という名で、毎年、新まちづくり計画に位置付けられる全ての「施策」と、それらを具体に実現するための「事業」の評価を実施している。

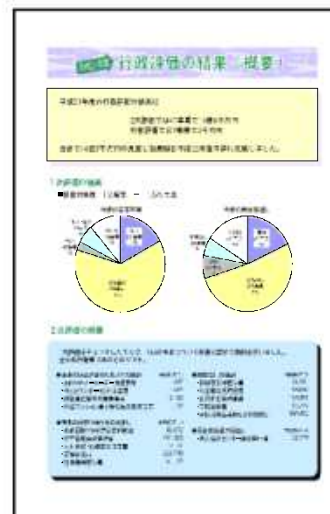
HPも表層的で結論が見えない!



札幌市 HP 「行政評価制度」トップページ
<http://www.city.sapporo.jp/somu/hyoka/index.html>



評価結果の概要
<http://www.city.sapporo.jp/somu/hyoka/kekka/pdf/h21gaiyou.pdf>

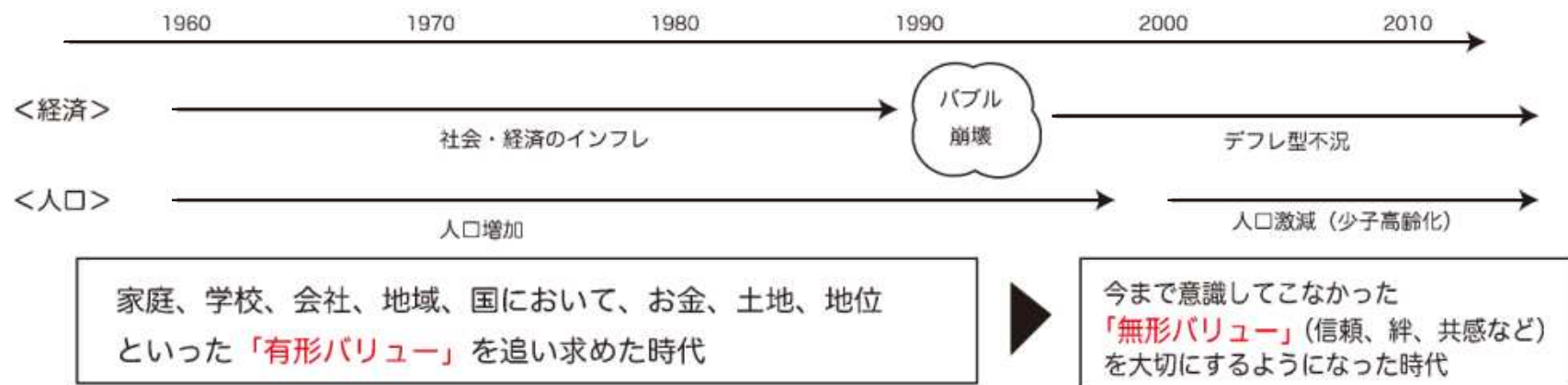


現在の札幌市の文化芸術施策の総括・検証はこの「行政評価」のみと考えられる。
 施策が総括化している状況を考えると、「行政評価」が新しい時代の施策の策定に有効な役割をはたしているとは考えづらい。

↓
<結論>

文化芸術施策の総括化を妨ぎ、有意義な振興をはかるためには「行政評価」とは別の新しい総括・検証システムの構築が必要です。

04 社会的価値観の変化とは？



- ・高度成長時代における文化芸術施策とは、施設（箱もの）重視の施策が中心
- ・箱もの施策に関する総括・検証はされたのだろうか？
- ・バブルの崩壊とそれに伴う社会構造の変化が起こる。社会や人々のニーズは、「有形バリュー」から「無形バリュー」へ。
- ・地縁・血縁によって成立していた旧来のコミュニティから、「志縁」によるコミュニティへのゆるやかな移行に「文化・芸術」の果たす役割は大きい。
- ・高度成長が見込めない産業面でも「文化・芸術」は成長を見込める新しい産業としての期待感がある。

このような社会的価値観の変化と市民や社会のニーズの変化に、文化芸術施策が柔軟に対応できず、かつての「有形バリュー」を求める施策と、現代の「無形バリュー」を大切にする施策が総花的に展開することになっている。

↓
<結論>

文化芸術施策の総花化を防ぎ、有意義な振興をはかるためには、社会的価値観の変化に柔軟に対応できる組織・システムが必要です。

————— 円卓会議は提案します。 —————

札幌の文化芸術行政に必要なもの、それは・・・

**文化芸術の施策全体を俯瞰できる
目に見える形をした「概観図」です。**

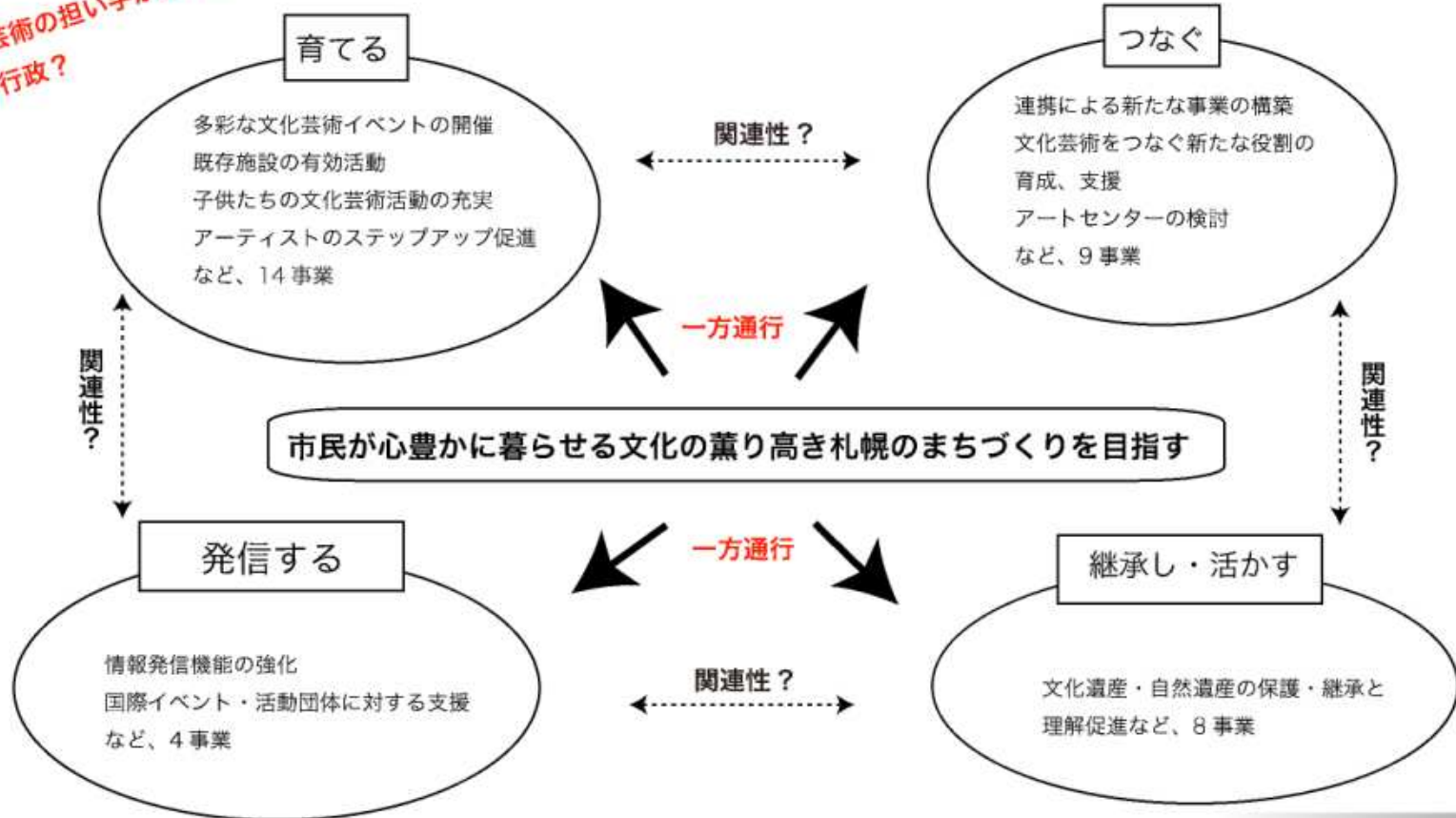
総括・検証が容易で
社会的価値観の変化に柔軟に対応できる
基本システムを
「見える化」したものの。

06 今までの文化芸術施策の概観図

4つの基本目標のもと、様々な施策を提言。
一方通行で、それぞれの関連性が見えない

例えば、平成21年『札幌市文化芸術基本計画』であれば、札幌の文化芸術を「育てる」「つなぐ」「発信する」「継承し、活かす」という4つの基本目標のもと、様々な施策を提言しています。4つの目標自体と個別の施策に関しては、素晴らしいものばかりでそれなりに納得できるものなのです。しかし、やはり総花的すぎて、これらの目標や施策がどのように関連づけられ、札幌の文化芸術の振興に繋がるのかが見えてこないのです。

文化・芸術の担い手が見えない
市民？行政？



07 新しい概観図のコンセプト

<ポイント>

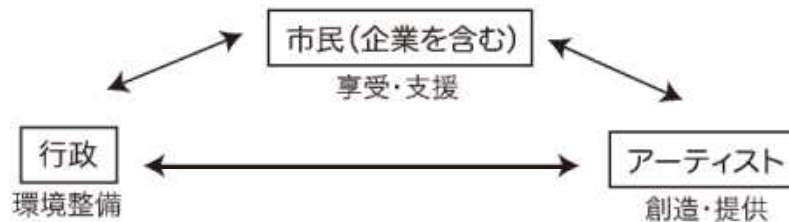
・文化・芸術の担い手として「市民(企業を含む)」「アーティスト」「行政」の3つを明確化。

市民(企業を含む) …コミュニティ(札幌市)の主体として文化的生活を営む。文化芸術の享受・支援者として機能。

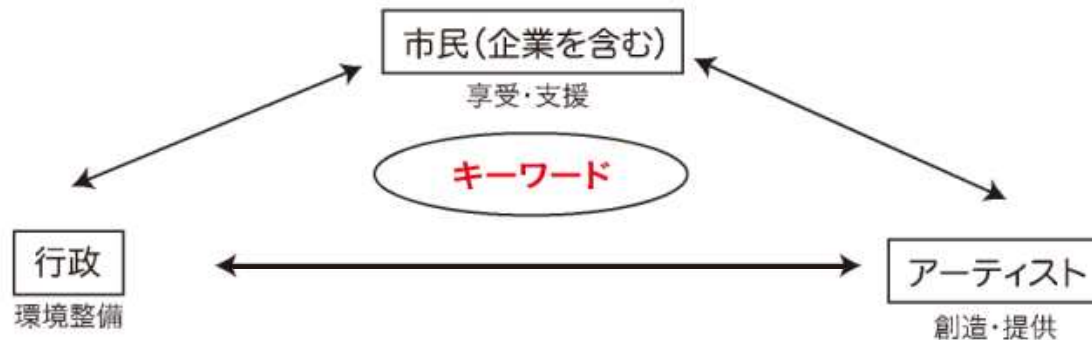
アーティスト …新しい価値を創造し、コミュニティに提供する。文化芸術の発信者として機能。

行政 …コミュニティの文化的な成長の指針を構築し、維持する。文化芸術の環境整備者として機能。

・3つの担い手を軸にした施策がスムーズに循環して、互いを補完し合うイメージを作る。



・循環を力強く推進させるための核となる「キーワード」を設定する。



キーワード

芸術の産業化

私たちが掲げるこのキーワードの根底にあり、目指していくものは、文化芸術関連の各セクターの活動がスムーズに循環するための基本となる概観図の明確化・確立です。

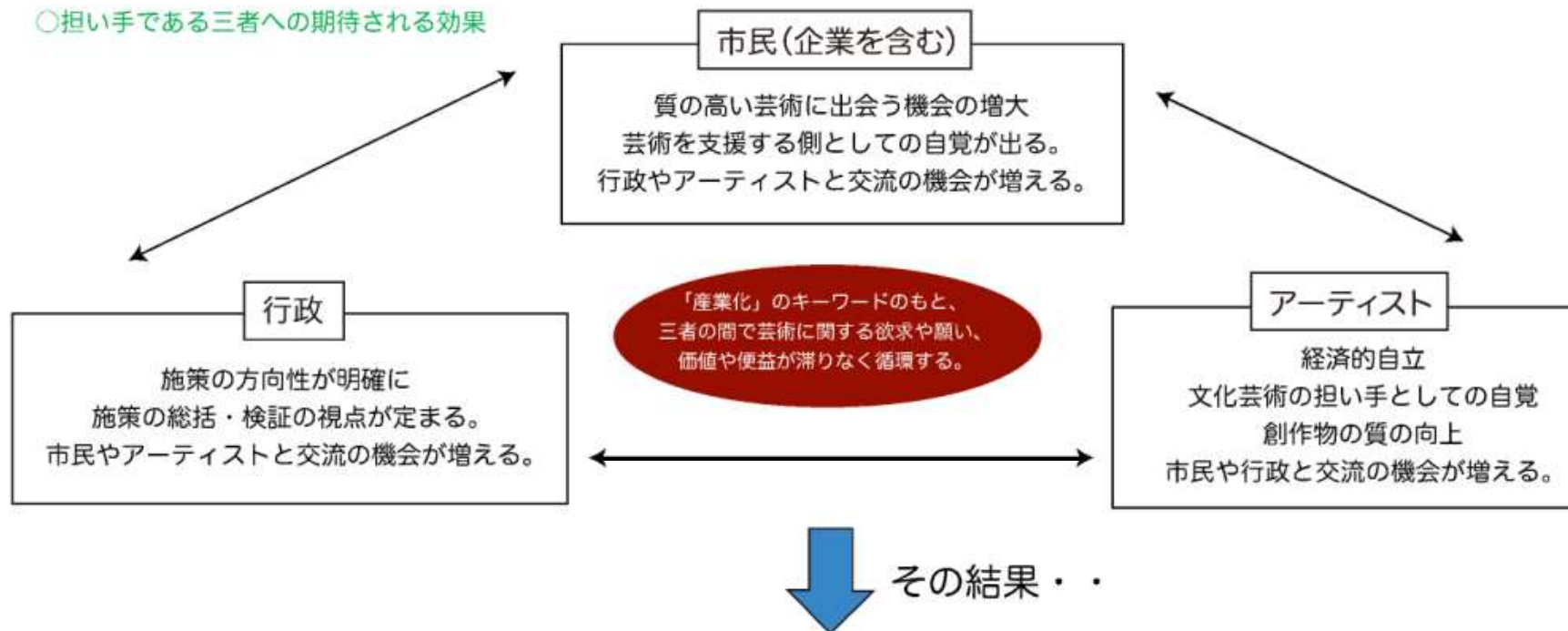
私たちが考える「芸術の産業化」とはどんなことか？

**文化の基盤の一つである芸術に
あえて「産業化」という視点を持ち込むことによって、
次の2つの状況が生まれます。**

- ① 「市民（企業を含む）」「アーティスト」「行政」の三者に、芸術の担い手としての自覚を促します。
そして、三者それぞれが、芸術に関して何かを求めたり、何かを生み出したりして、お互いを補完し合う緊張感のある関係が生まれます。
- ② その関係の中で、三者が芸術に関する欲求や願い、価値や便益を滞りなく循環させます。
そして、その循環がコミュニティにおいて必須の仕組みとなり、芸術を社会共通の財産として捉えようという考えが生まれます。

09 「芸術の産業化」によって期待される効果

○担い手である三者への期待される効果

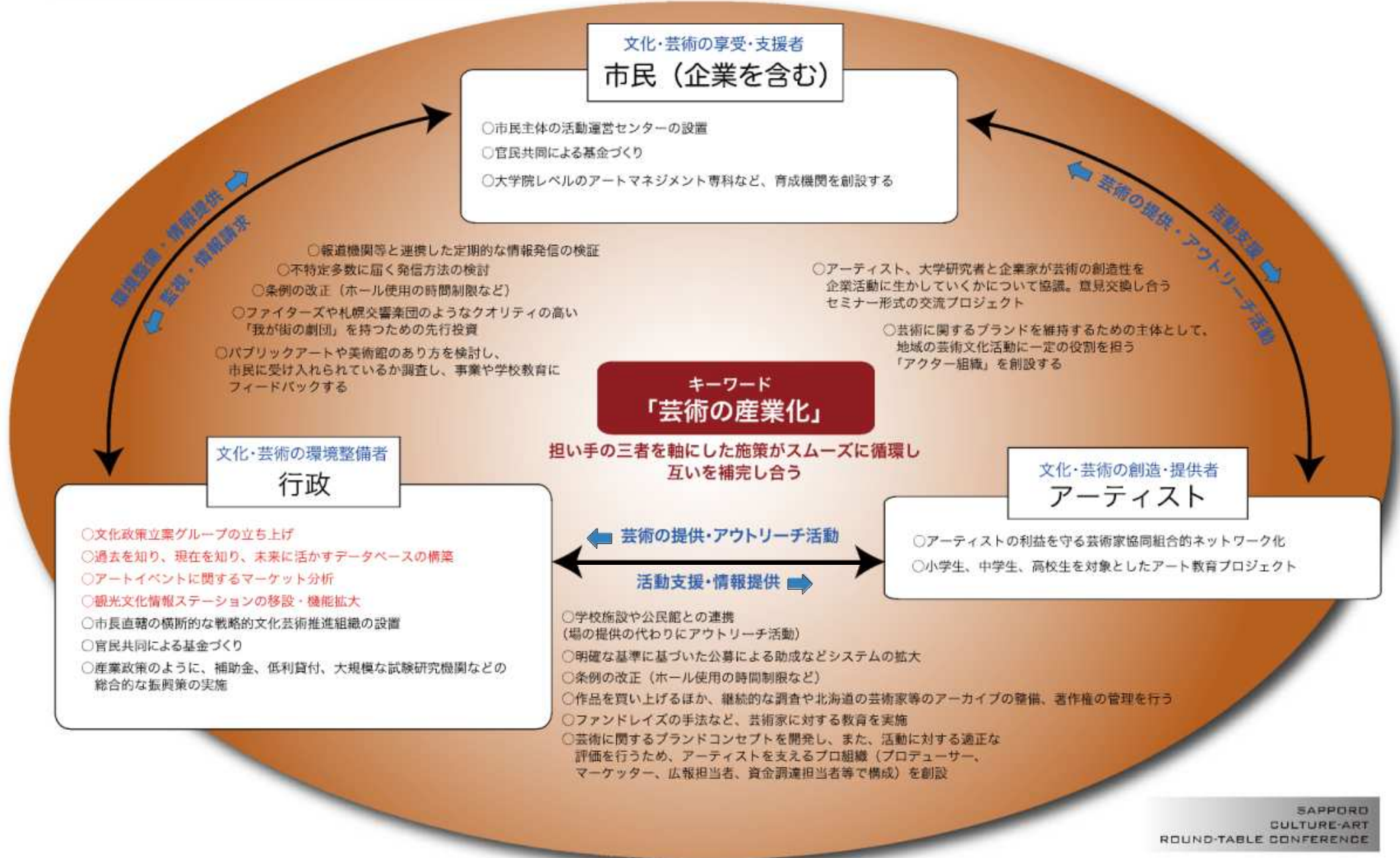


○コミュニティ（札幌市）への期待される効果

- 「札幌」という都市が世界的に「文化・芸術の街」となる。
- 市民や子供たちが誇りをもてる街に。
- 世界中からアーティストが集まる。
- 文化人が多く住む街としての魅力アップ。
- 「文化・芸術」が観光資源となり、観光客が増える。

円卓会議が提案する新しい文化芸術施策の概観図

○赤文字がすぐにでも始めるべき施策案
○黒文字が各委員から提案された施策案



10 最後に～すぐにでも始めるべき施策の提案

今回、提案した「新しい文化・芸術施策の概観図」を実現させるために必要な環境整備について、すぐにでも始めるべき施策を提案いたします。

(1) 文化政策立案グループを立ち上げます。これは、以下の(2)、(3)を検討するための前提となります。

- ・札幌市職員と民間専門家とが対等な立場で参画します。
 - ・(2)の文化芸術に関するデータベースを活用し、新規の文化政策立案とともに定期的な事業棚卸しを実施します。
- 将来的には、
- ・行政から支援を受けた専門の民間機構(例:英国のアーツカウンシル)を作り、継続的に文化政策全般を担うことができるようにします。

(2) 文化芸術に関するあらゆるデータを蓄積し、データベースとして提供できるようにします。

- ・過去を知り、現在を知り、未来に活かすデータベースを構築します。
 - ・そのデータベースが、将来、文化政策立案の際に重要な根拠を提供します。
- そのためには、
- ・札幌市の文化芸術の状況をいつでも把握できるような調査システムを作り、その上で文化芸術の状況を評価します。
 - ・その際、大学との連携やシンクタンクへの委託を検討します。

(3) 札幌市内で開催されている、さまざまなアートイベントに関する広報をバックアップする場と機能を充実させます。

- ・「観光文化情報ステーション」を地下鉄主要18駅に設置するとともに、ホームページを充実させます。
- ・さまざまなアートイベントに関するマーケット分析を行い、データによる現状把握をはじめます。これは(2)にも使われます。